

余市町の葡萄作りの匠の ワインづくりに迫る!

～北島秀樹さんへのインタビュー～

余市町で醸造用ぶどうを栽培する北島秀樹さんは、日本ワインコンクール2026で最高賞のグランドゴールド賞を受賞するなど、高品質なワインづくりに高い評価を得ています。

今回は、受賞を支える栽培へのこだわりと、土づくりに対する考え方についてお話を伺いました。

品種：ケルナー、ピノ・ノワール、シャルドネ、
ツヴァイゲルトレーベ

面積：約5ha



【北島秀樹ブランドのワイン】

●余市町について



北海道余市町は、日本を代表するワイン用ぶどう産地として国内外から注目を集めています。余市町は北海道の中でも比較的温暖で、海風の影響もあり、醸造用ぶどうの栽培に適した環境として知られています。

しかし、近年は高温や降雨量の変動も大きく、安定した品質を維持する為には、土づくりと樹勢管理がこれまで以上に重要になっています。

●受賞ワインについて



北島さんが手掛けた「ケルナー2021」は、ふくよかな果実味と芳醇な香り、凛とした酸などが絶賛され、日本ワインコンクール2026において、グランドゴールド賞を受賞されました!

北島さんは、「葡萄本来の長所を適切な酵母を使って引き出してくれた醸造責任者のおかげだ」と話します。

受賞の背景には、日々の地道な栽培管理と土づくりへの真摯な取り組みがありました。

施肥体系

●千代田化成472(40kg/反、8月中旬頃)

北島さんが特に重視しているのが、「環境づくり」です。その為に、40年以上に渡り、活用している肥料が「千代田化成」です。
千代田化成は速効性と拡散浸透性、土壌吸着性を兼ね備えた肥効により、安定した養分供給を実現します。

北島さんは、「樹勢を確保しながらも過繁茂になりにくく、生育バランスが取りやすい」と評価されています。
特に新梢の伸長や葉色維持など、品質形成の土台となる生育管理に役立てているそうです。



●貝化石肥料

ミネラル補給の観点から、貝化石資材も活用されています。

貝化石は、各種ミネラルの補給に加え、土壌の団粒化、微生物活性、保水・保肥力の向上などの効果により、健全な根域づくりにより、高品質生産の鍵となっています。

貝化石資材の投入により、カルシウムや葡萄栽培には欠かせないミネラル分の補給が期待できる為、長年に渡り、土づくりの基本資材として活用しています。

北島秀樹さんのこだわり

栽培で最も大切にしているのは、「毎年、安定した品質の葡萄を収穫する事」。
良い年に最高品質を目指すだけでなく、土壌状態、葉色、樹勢等を見極め、収量を適正に調整するといった基本管理を徹底し、毎年安定した生産を追求しています。



また、防除は、開花前から収穫前までに毎週1回実施されています。
北島さんからは、「ワインは自然の産物です。だからこそ、畑の状態を見ながら丁寧に管理することが大切だと思っています。」とのお話がありました。

日々の観察と積み重ねが、高品質な醸造用葡萄の生産に繋がっています。

●おわりに

最高評価を受けたワインの背景には、優れた醸造技術だけでなく、畑における丁寧な栽培管理と土づくりがあります。北島さんは、千代田化成や貝化石資材を活用しながら、健全な樹づくりと高品質な果実生産に取り組んでいます。

これからも北島さんの挑戦は、北海道ワイン産業のさらなる発展につながっていくことでしょう。